

体育科模擬授業における学習成果  
—授業・授業づくりの要点の理解と学習を促す授業体験の事例的検討—

宮尾 夏姫<sup>1)</sup> 三木 ひろみ<sup>2)</sup> 柴田 俊和<sup>1)</sup>

The Effect of Simulated Class of Physical Education on  
Understanding of the Important Points for Developing and  
Implementing a Lesson Plan and Some Participants' Experiences  
Facilitating Their Learning Outcome

Natsuki MIYAO, Hiromi MIKI, Toshikazu SHIBATA

Abstract

The purpose of this study was to examine the outcomes of the simulated physical education class in the Physical Education Teacher Education program. In the class, correspondence of a lesson plan to leaning goals of the lesson and consideration of learners were emphasized in developing and implementing a lesson plan.

At first, we conducted a questionnaire survey asking 39 students to describe important points for developing and implementing a lesson plan before and after the class. The analysis of the students' descriptions suggested that through the class many students came to understand the importance of planning process and correspondence of a lesson plan to leaning goals.

Secondly, we interviewed three students who showed significant changes about their experiences changing their understanding through the class. It was suggested that not only the role of a teacher but also the roles of a student and an observer made them aware of the important points for developing and implementing a lesson plan and the importance of planning process before and reflection process after the lesson.

Key words : simulated class, lesson plan, planning process, leaning goals, role of a student,  
role of a teacher, observer

キーワード : 模擬授業, 授業計画, 計画段階, 学習目標, 生徒役, 先生役, 観察者

## 1. はじめに

今日、多くの大学の保健体育科教員養成課程において模擬授業が実施され、その効果が報告されている（長谷川，2003：村井ほか，2009：藤田ほか，2011）。模擬授業では、一般的に計画・立案した授業を、大学生が教師役となり、他の大学生を生徒役として授業を実施し、教師役あるいは生徒役として授業を振り返る。大友（2002）は、この過程に「授業実施に伴って起こる実践的問題を浮かび上がらせる機能がある（大友，2002，p.257）」ことを指摘しており、小松崎（2010）は、模擬授業によって、「授業実践に直結する具体的事項について、実際の行為を通して学び身につける」こと、具体的には①授業を計画し、②授業を実施し、③振り返るといった活動を通じて、授業改善に生かす力を身につけていくことが求められていると述べている（小松崎，2010，p.263）。

これまで報告されている模擬授業の効果や意義は、教師役の経験や教師行動に着目したものが中心となっている。藤田ほか（2010）は、教師役の経験が、授業の省察に及ぼす効果について検討している。その結果、教師役を経験することによって「事実」を踏まえた判断が促進され、教師役として、生徒からの反応を踏まえて省察したことは、その後の生徒役としての省察にも影響を与えていることを示唆した。また、省察の視点は、「教師行動」から「教材・教具・学習課題」へと転換し、批判的に評価する視点を獲得すると報告している。このような模擬授業による授業に対する視点の獲得について、長谷川ほか（2010）や木原（2008）は、映像視聴により獲得が促進されることも報告している。このように教員養成段階の学生は、模擬授業中の複数の活動をとおして、授業を計画・実施・省察する上で必要な視点を獲得していると考えられる。

本学においても、2年次から、4年次での

教育実習、教職実践演習に至るまで、複数回の模擬授業を設定している。そこでは、目標と指導の一致、学習者の特性を考慮すること、そして指導力・指導技術の向上に重点を置き、これらの内容を段階的に習得していくことが求められている。学校スポーツコースでは、授業を実施するために重要な資質である「単元構成能力」「教材開発能力」「臨牀的実践能力」「反省的実践能力」「マネジメント能力」（大友，2010，p.257）といった能力を獲得するために、教材開発や模擬授業を取り入れた授業を多く開講している。特に学校スポーツコース3年次前期の必修科目である「学校スポーツ専門実習Ⅰ」では、教員志望の強い学生がはじめてしっかりと教材研究や模擬授業に取り組むことになり、この半期の模擬授業を通じて獲得が期待される。授業に対する視点や意識は、その後の教育実習等に非常に大きな影響を与えることが予想できる。しかし、これまで本学で実施している3年次生の模擬授業による学習成果の確認は十分には行われていない。教師としての実践的な力量獲得の導入にあたる模擬授業において、学習成果を確認することは、本学における教員養成の在り方を考える上で非常に重要であるといえる。

そこで、本研究では、本学において実施している「学校スポーツ専門実習Ⅰ」での模擬授業経験をとおして受講生が授業や授業づくりについて十分に学習し、授業・授業づくりを行う際に必要な観点や考え方を習得することができたのかを検討し、さらに、学習成果が見られた受講生の事例から、こうした学習成果が模擬授業におけるどのような経験から促されたかを検討することを目的とした。

## 2. 方法

### 2-1. 調査対象者および手続き

本学の生涯スポーツ学科学校スポーツコースにおいて開設されている「学校スポーツ専門実習Ⅰ（以下、専門実習Ⅰ）」は、2014年4

表1. 学校スポーツ専門実習 I の実施概要

授業の目標	模擬授業の計画、実践、分析を通して、保健体育授業実践に関する知識・技能・実践的力量・改善能力を高める。
受講者	学校スポーツコース3年次生 47名
授業計画	1. オリエンテーション, 担当者決め, 授業構想 (講義とグループワーク)
	2. 組織的観察法に関する理解と確認 (講義と演習)
	3. マイクロティーチングの実践と省察
	4. 模擬授業① 器械運動
	5. 授業参観① S中学校において陸上競技の授業を参観
	6. 模擬授業② 水泳
	7. 授業参観② K小学校において陸上運動の授業を参観
	8. 模擬授業③ 器械運動
	9. 模擬授業④ ダンス
	10. 模擬授業⑤ 体づくり運動
	11. 模擬授業⑥ 体づくり運動
	12. 模擬授業⑦ 体づくり運動
	13. 模擬授業⑧ 水泳
	14. 模擬授業⑨ ダンス
	15. 最終省察
受講生の活動内容	①教師役, ②生徒役, ③組織的観察記録, ④授業準備, ⑤授業後のリフレクション, ⑥リフレクションシート記入, ⑦サマリーシート結果

月～7月の期間、15回に渡って実施された。この科目を受講している3年次生を対象に、受講前の2014年1月と受講後の2014年7月に、授業の計画・実施において大切だと考えていることを尋ねる質問紙調査を実施した。2回の調査のどちらともに回答が得られた39名(男子33名, 女子6名)を分析の対象とした。質問紙調査の結果を分析し、受講後に授業や授業づくりに対する考え方に顕著な変化がみられた学生3名を抽出し、そのように変化するきっかけとなった専門実習中の体験について尋ねるインタビュー調査を、2014年9月から10月の期間に実施した。なお本研究は、びわこ成蹊スポーツ大学の図書・学術委員会学術研究倫理専門委員会の承認(成第60号)を得て実施された。

## 2-2. 学校スポーツ専門実習 I の概要

専門実習 I の授業目標と計画は、表1に示す通りである。この授業では、受講生の保健体育授業実践に関する知識・技能・実践的力量を高めることをねらいに、マイクロティーチングおよび模擬授業を行い、授業後に授業改善に向けて協議と省察を綿密に行っている。また、学習者の実態に応じた授業運営に関する知見を深めるために、小・中学校で実際の体育授業を参観している。受講生は、所属するゼミごとのグループに分かれ、9つのグループが交代で、模擬授業での教師役と期間記録や相互作用行動の組織的観察・記録をおこない、担当ゼミ以外の学生が生徒役として模擬授業に参加している。1つの模擬授業(50分)を、導入、展開、応用の3つのパート

表2. インタビューガイド

	調査項目
対象者の属性	専門実習 I で担当した役割 (教師役, 生徒役, 観察・記録)
①今回の模擬授業について	Q1. どんなことを学ぶことができたか Q2. 模擬授業をやってみて難しかったこと Q3. 模擬授業をやってよかったこと
②模擬授業前後での変化	Q4. 実習 I 前後でどんな変化があったか Q5. 記述の変化について, きっかけになったことがあったか ⇒模擬授業中に感じたこと ⇒模擬授業が終わって感じたこと Q6. 模擬授業中の7つの活動で自分にとって有意義だった活動はどれか ⇒どんな理由でそう思うのか
③次回の模擬授業に向けて	Q7. 次回の模擬授業で今回考えるようになったことをどう生かしたいか Q8. 専門実習 I で模擬授業をやる前にどんな情報がほしかったか

に分けて3名の教師役で授業を行っている。

模擬授業後には, 全体で, 30分程度省察を行い, 教師役, 観察・記録, 生徒役のそれぞれの立場で反省点や改善点などを協議する。さらに, 教師役, 観察・記録, 生徒役の省察を聞き, 全体で協議した内容を踏まえ, 各自が「リフレクションシート」に個人の省察を記入している。省察は, 学習内容・学習環境・教師行動それぞれについて, 模擬授業中にどのように行われていたか・どのような状況であったか(事実)について述べ, その事実に対する評価を行った上で, 組織的観察結果に対する考察を踏まえ, 自分なりの改善点をあげるとい形式になっており, 課題の発見・査定, 改善方法の提案といった授業改善の力を養う取り組みとなっている。また, 観察・記録の結果は, 模擬授業終了後すぐに集計し, 省察の時間に全員に提示することに加え, 生徒役の形成的授業評価, 体育授業観察者チェックリストの結果とともに, サマリーシートとして次週の授業時に全員に配布している。

### 2-3. 調査内容・方法

質問紙調査では, 「授業・授業づくりにおい

て大切だと考えていること」について自由記述で回答を求めた。授業を実施し改善していくプロセスは, 「授業計画」「授業実施」「省察」「授業改善の検討」で構成されているため, 記述がどの段階に関するものであるかによって, ①授業計画, ②授業実施, ③省察, ④授業改善の4カテゴリーに分類した。さらに, 模擬授業をとおして, 授業づくりに大切な観点として, 「目標と対応した授業づくり」と「学習者に対応した授業づくり」の獲得を強調しているため, 記述に, a 目標との対応, b 学習者考慮, c 教師の指導力・指導技術に関する内容が含まれているかを分析し, 受講前後で比較を行った。

さらに, 受講後の調査で記述内容に顕著な変化のみられた学生3名を抽出し, 受講後の質問紙で回答した変化のきっかけとなった模擬授業での活動や体験について尋ねる半構造化インタビューを実施した。調査の際は, 質問項目を記したインタビューガイド(表2)を参照しながら質問を行った。インタビューは, 対象者の承諾を得てICレコーダに録音し, インタビュー終了後に書き起して内容を分析した。

### 3. 結果および考察

#### 3-1. 授業・授業づくりで大切なことについての認識の変化

受講生が授業・授業づくりを行う上で「どのようなことを大切だと考えているのか」について回答した自由記述を、①授業計画、②授業実施、③省察、④授業改善のいずれの段階に関する記述であるかによって4つに分類し、さらに、記述内容に本授業で強調している授業づくりに必要な項目が含まれているかによって、a 目標との対応、b 学習者考慮、c 指導力・指導技術、d その他の4つに分類した。

表3は、模擬授業実施前後のそれぞれの記述数と全体に占める割合と記述例を示している。模擬授業前には、②「授業実施」に関する記述が最も多く(62%)、その内容は「メリハリが大事」といったc「教師の指導力・指導計画」に関するものが多かった(授業実施に関する全記述の46.3%)。次いで①「授業計画」に関することが多く(36%)、その内容は「年齢や性別に合ったレベルなのか考える」といった「学習者理解」に関する記述が多かった(授業計画に関する全記述の48.4%)。模擬授業後は、①「授業計画」に関することが最も多くなり(55%)、その内容は「目標と内容を明確にする」といったa「目標との対応(授業計画に関する全記述の30.8%)」や「イメージを持つこと」などのd「その他(授業計画に関する全記述の32.7%)」が多かった。専門実習Iの前後ともに「省察」や「授業改善」に関する記述はほとんど見られなかった。

専門実習I前後の記述内容の変化を検討するため、記述数の少なかった③「省察」に関する記述と④「授業改善」に関する記述を足し合わせて、表4のように3つにまとめて集計し、 $\chi^2$ 検定を行った結果、記述数の偏りは有意であった( $\chi^2(2)=7.138$ ,  $p<.05$ )。残差分析をおこなった結果、表5に示す通り、模擬授業前には②「授業実施」に関する記述の割

合が多かったが、模擬授業後には少なくなり、①「授業計画」に関する記述の割合が増えていることが分かった。

表6は、記述内容を、本授業で強調している授業づくりに必要な項目に「その他」を加えた4カテゴリーに分類して集計し、記述数の偏りについて $\chi^2$ 検定を行った結果を示している。 $\chi^2$ 検定の結果、記述数の偏りは有意であり( $\chi^2(3)=20.013$ ,  $p<.001$ )、残差分析をおこなった結果、表7に示す通り、模擬授業前には少なかったa「目標との対応」に関する内容の割合(3.4%)が模擬授業後には多くなり(25.5%)、模擬授業前に多かったb「学習者考慮」に関する内容(36.8%)が模擬授業後に少なくなっている(19.1%)ことが分かった。

これらの結果から、専門実習Iにおける模擬授業の経験により、受講生は授業・授業づくりにおいて「授業計画」が重要であるとの認識をより強く持つようになったと考えられる。その中でも特に、模擬授業前にはほとんど見られなかった「目標との対応」を大切にしながら授業づくりをおこないたいと考えるようになったと思われる。模擬授業前に多かったが模擬授業後に少なくなった「学習者考慮」に関する記述例をみると、「生徒のことを考える」といった内容が「できない生徒」への配慮の必要性に気づいたり、「実態」に合わせ「段階を踏んだ」内容を考えることなどが授業づくりを行うこと上で重要であると認識していることがわかる。はじめての模擬授業によってこれまでは授業を「受ける側」であった受講生が授業を「する側」としてより実践的内容を学習していると考えられる。

一方で、授業の振り返りや授業改善に関する記述はほとんど見られなかった。これは、模擬授業が継続的な授業実践ではなく単発の授業実践となることから、授業を実践し省察した内容を次の授業に活かすというサイクルが中断してしまうという特徴の影響が推察で



表3. 授業づくりで大切なことについての記述の分類と模擬授業前後の変化

段階	内容	記述数 (模擬授業前)	記述数 (模擬授業後)	記述例(模擬授業前)	記述例(模擬授業後)
①授業計画	a 目標との対応	3	16	・生徒に何を学ばせたいか考える	・目標と内容を明確にする ・単元全体をとおしてその授業を考える ・明確な目標設定
	b 学習者考慮	15	8	・生徒のことを考える ・年齢や性別に合ったレベルなのか考えることが大切 ・どう理解されるか予想すること	・段階を踏んで授業を作ること ・いろいろなパターンを考えておくこと ・できない生徒のことを考えておく
	c 指導力・指導技術	5	11	・知識が必要	・様々な生徒の返しパターンを予測すること
	d その他	8	17	・準備が大切	・万全の準備 ・細かく作る ・シミュレーションする
②授業実施	a 目標との対応	0	7		・学ばせる内容が明確であること ・目的を達成するための段階的な授業展開
	b 学習者考慮	17	9	・生徒の発言を大切にすること ・生徒の自発性 ・できない子でも楽しめる ・生徒が中心	・児童の実態に合っているか ・教師の一方通行ではなく、生徒と一緒に作る ・砕いて段階を踏めるようにする
	c 指導力・指導技術	25	21	・メリハリが大切 ・しっかりとした規律の中で行われるもの ・臨機応変に対応できるようにする	・運動学習時間を確保する ・環境づくり ・安全面を配慮する ・教え合いを持たせる ・声をかける
	d その他	12	3	・楽しくする ・楽しく体を動かして学ぶこと	・楽しい内容にする
③省察	a 目標との対応	0	1		・目的を達成できるように組んでいるか
	b 学習者考慮	0	1		・対象にあっているか
	c 指導力・指導技術	1	0	・教師がその内容を入念に復習すること	
	d その他	0	0		
④授業改善	a 目標との対応	0	0		
	b 学習者考慮	0	0		
	c 指導力・指導技術	1	0	・日々の勉強	
	d その他	0	0		
合計		87	94		

きる。そのため、授業実践における日々の授業に対する省察の重要性については、その必要性の認識を持てるように働きかける必要が

ある。また、授業・授業づくりにおいて大切だと考えることの回答を求めたことで、模擬授業を初めて実施した3年次生にとっては、

表4. 授業づくりの各段階に関する記述数

段階	pre	post	$\chi^2$ 値
①授業計画	31	52	7.138*
②授業実践	54	40	
③その他	2	2	

\*:p<.05

表5. 各段階の記述に関する残差分析

段階	pre	post
①授業計画	-2.7**	2.7**
②授業実践	2.6**	-2.6**
③その他	0.1	-0.1

\*\*p<.01

表6. 授業づくりの要点についての記述数

内容	pre	post	$\chi^2$ 値
目標との対応	3	24	20.013***
学習者考慮	32	18	
指導力・指導計画	32	32	
その他	20	20	

\*\*\*:p<.001

表7. 要点の記述数に関する残差分析

内容	pre	post
目標との対応	-4.2**	4.2**
学習者考慮	2.7**	-2.7**
指導力・指導計画	0.4	-0.4
その他	0.3	-0.3

\*\*p<.01

授業計画や授業実践の内容をより大切だと認識していることが推察できる。専門実習Ⅰを導入として、学校スポーツ専門実習Ⅱや教育実習事前指導、教育実習と続く段階的且つ継続的なカリキュラムの中で、授業を計画し、実施し、省察するという授業実践のサイクルを学ぶことができるようにそれぞれの講義内容とその繋がりを十分に検討する必要もあるといえる。

### 3-2. 授業・授業づくりに必要なことに気づく契機となる模擬授業の経験

ここでは、受講生の個人内の変化に着目し、模擬授業受講後の質問紙調査で顕著な変化のみられた3名の受講生の事例を検討する。受講後の質問紙調査の結果から、専門実習Ⅰを通して強調していた「目標との対応」や「学習者の考慮」が授業づくりに必要なことだと気づいたと思われる受講生を抽出し、そのように思うきっかけとなった模擬授業での活動や体験について尋ねる半構造化インタビュー（平均33分）を実施した。具体的には、

表8. 調査対象者の概要

対象	性別	模擬授業での役割	授業・授業づくりで大切なことについての記述内容	
			模擬授業前	模擬授業後
受講生A	男	観察・記録 生徒役	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識が必要 (①c)</li> <li>全員が学べるようにしなくてはならない (②c)</li> <li>楽しみながらやりたいもの (②d)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的をもつ (①a)</li> <li>何をしたいか明確にする (①a)</li> <li>最終的にどうしたいか考える (①a)</li> <li>準備が大切 (①c)</li> <li>次につなげられるようにする (②c)</li> </ul>
受講生B	男	観察・記録 生徒役 教師役	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業が楽しみと思ってもらえるものをつくる (①b)</li> <li>できない子でも楽しめる (②b)</li> <li>メリハリが大切 (②c)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何を目標にしているか (①a)</li> <li>何を身につけさせたいか (②a)</li> </ul>
受講生C	女	観察・記録 生徒役 教師役	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後には「楽しかったね」と思えるような授業をつくる (②c)</li> <li>楽しくするもの (②d)</li> <li>楽しさの中に厳しさを求める (②d)</li> <li>楽しさの中での悔しさ、協力を入れる (②d)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段階 (①b)</li> <li>あきないようなこと (②c)</li> <li>運動学習時間 (②c)</li> <li>班のグルーピング (②c)</li> <li>教え合いがあること (②c)</li> </ul>

専門実習Ⅰを通して強調していた「授業計画」, 「目標との対応」に関する記述が増えた受講生2名(受講生A・B), 「学習者の考慮」に関する記述が受講後に見られるようになった受講生1名(受講生C)を抽出した。対象者の概要と専門実習Ⅰ前後の記述内容は表8の通りである。

### 3-2-1. 受講生Aの場合

受講生Aは, 専門実習Ⅰ前には, 授業・授業づくりには, 「知識が必要」「楽しみながらやりたい」というように, ①「授業計画」, ②「授業実施」の段階の, 教師のc「指導力・指導技術」に関することが重要だと考えていたが, 専門実習Ⅰ後には, 「目的をもつ」「何をしたいか明確にする」「準備が大切」といった①「授業計画」の段階で, a「目標との対応」を考えることがより大切だと思ようになった受講生である。

受講生Aは, 今回の専門実習Ⅰにおいて, 模擬授業では教師役は担当せず, 観察・記録活動を担当し, 他のグループが担当している模擬授業では, 生徒役として授業を受けている。専門実習Ⅰの前後で大切だと考えることが変わったきっかけとして, 生徒役として授業を受けたときに, 教師役の授業内容について疑問を感じたことを挙げている。

「他の授業みても, これをしたから次になにがあるのかっていう発展とかがみえにくかったところがあったんで, それやったら違うことでやったらいいと思った。(中略) 生徒役してても, ポイントとか目的があったらそこに対してやっていこうって思うけど, 授業が不明確やったらだらだらとしたり, これやっとならばいいやみたいな雰囲気になると思ったのが一番大きいです」

このように, 生徒役として授業を受けながら, 学習活動と次の学習活動のつながりや, 目的や学習の見通しといった, 教師としての視点を持って授業を評価していることが伺

る。模擬授業をおこなうことで授業をする側の視点をもった受講生の, その後の生徒役としての経験が, 教師としての授業への考え方を変化させるきっかけになったと考えられる。また, このような生徒役での経験によって, 目標と対応した授業の方が明確で焦点化されているという実感を強めたと推測される。

「単なる運動を教えるんだったら, 楽しみながらやりたいとか, 遊びでもできることやと思うんですけど, 授業をとおしての計画をしっかりと立てて, 運動させて, (中略) 最終的にどうするかって明確にしたうえで, そこから逆算して授業を立てていった方がというのを感じて, 何か目的もつかなないと, なんとなくで終わってしまうのは一番よくないと思ったんで」

受講生Aがインタビューの中で述べているように, 模擬授業において「授業をとおしての計画をしっかりと立てて」実践し, 「最終的にどう」やって目的を達成するかを考えたこと, 「そこから逆算して授業を立てていった方が」いいと感じたことによって, 「遊びでもできること」と目的を達成できるように計画する「授業」の違いを理解したのではないかと推測される。

### 3-2-2. 受講生Bの場合

受講生Bは, 専門実習Ⅰ前には「授業が楽しみと思ってもらえるものをつくる」「できない子でも楽しめる」といった①「授業計画」, ②「授業実施」の段階で学習者を考慮して授業・授業づくりをすることが重要であると考えていたが, 専門実習Ⅰ後には, 同じく①「授業計画」, ②「授業実施」の段階において, 「何を目標にしているか」「何を身につけさせたいか」といったa「目標との対応」を考えて授業・授業づくりをすることがより大切だと考えるようになった受講生である。

受講生Bのグループは模擬授業を2回担当し, Bは教師役および, 観察・記録活動を担



当し、自分たちが模擬授業をおこなっていない授業では、生徒役として授業を受けており、本実習内で設定しているすべての役割を経験している。変化のきっかけが、受講生A同様、生徒役として授業を受けたときに、教師役から指示されて行っている活動の意味やつながりを考えたこと、最終的に目的の達成につながらなければ意味がないと思うようになったことだということが、インタビューでの次のような説明から推測される。

「他の人の授業を受けて、これ何の意味があるんやろとかって考えるようになって。これ全然意味ないよなとか、なんでやってるんやろとかは受けてて思うようになりました。今やってるものが何につながるんやろって」

自分たちが授業づくりをおこなう段階で、1時間の授業の流れを意識していたかについて、受講生Bに尋ねたところ、「意識してました。教材選ぶときとか。こうしたら次の運動につながるんちゃうか」と答えた。これは、受講生Bの所属するゼミが2回模擬授業を担当したことも大きく影響しているのではないかと考える。受講生Bのグループが担当した最初の模擬授業は、専門実習Iでも1番はじめの授業であった。その模擬授業で観察・記録を担当していた受講生Bは、その時の授業について次のように語っている。

「ひどかったなって思います。とりあえずやらせてるだけっていう感じで。(言葉かけも)『いいよいいよ』とかばっかりで、『どうしたらいい』とか全然なかった気がします」

こうした直接授業づくりにかかわった模擬授業についての、「やらせているだけ」で「どうしたらいいのか分からない」授業だったという省察が、他のグループの模擬授業に対する「なんでやっているのか、何につながるのか分からない」授業という省察につながり、「何

を身につけさせたいのか」「何を目標とするのか」を明確にし、最終的にその目標の達成につながる授業を行うことが大事だと考えるようになったと推測される。このことから、模擬授業でのこのような授業づくり・授業経験の積み重ねが重要であると考えられる。

### 3-2-3. 受講生Cの場合

受講生Cは、専門実習I前には「楽しくするもの」「最後には楽しかったと思えるような授業をつくる」といった、①「授業実施」での教師のc「指導力・指導計画」に関する内容を重要であると考えていたが、専門実習I後には、「(技能習得の)段階」「運動学習時間」「教え合いがあること」が大切というように、学習者の技能を習得するまでの過程や、学習活動の質や量を考慮するようになってきた。

受講生Cは、今回の専門実習Iの初めての模擬授業では観察・記録活動を担当し、自分たちが模擬授業をおこなっていない授業では生徒役として授業を受け、最後に教師役として模擬授業をおこなっており、受講生B同様、本実習内で設定しているすべての役割を経験している。受講生Cは、専門実習Iの前後で体育授業に対する考え方が変わったことについて、次のように語っている。

「やる前は、楽しかったらいいって思ってた。高校のときも周りに部活してる子が多かったときはバレーとかバスケとかしてても楽しかった。(中略)スポーツできる子ばかりだと楽しいじゃないですか。でも、急にこれやってとか、試合とか言われてもできないし。模擬授業の中で自分が跳び箱ができなくて、前はできてたのにできなくて、すごく悔しかった。それを終わってからゼミの時に練習させてくれて。こっからって段階踏んだらできたんで、段階って大事なんやなって。」

このように、受講生Cは、自分が受けてき

た高校までの体育授業のイメージから「楽しさ」が大切であると思っていたが、模擬授業の中では、「急にこれやってとか、試合とか言われてもできない」「自分が跳び箱ができなくて、前はできてたのにできなくて、すごく悔しかった」という経験をし、模擬授業後の練習で「こっからって段階踏んだらできた」という経験をした。これらの経験から、「運動学習時間」を確保し、「段階」を踏んで技能が習得できるようにすることが大事と考えるようになったと思われる。また、インタビューの中で述べているように高校の体育の授業で楽しかったのは「周りに部活してる子が多かったとき」だったと思い出し、できなかった跳び箱の練習をさせてもらった経験と合わせて、模擬授業後の質問紙調査では「教え合いがあること」が大事だと記述したのではないかと推測される。技能の習得段階の重要性については、模擬授業の中で観察・記録担当としてビデオ撮影をしながら授業を見ていたときにも実感しており、様々な角度から授業を見ることで、体育授業に対する考え方や、授業づくりにとって大切な視点を獲得することが期待できると言える。

さらに受講生Cは、模擬授業後に実施している省察の時間について次のように話し、他の人の視点や考え方が自分とは違っていることに気づき、自分と違う視点で見たことや自分では思っていなかったことを指摘してくれる意見を聞きたいと思うようになっている。

「自分はもし完璧、すごいいい授業ができたと思っても周りからみてたらこう思ってたとか、いろんな人の考え方があるんで。そういうみんなが思ってること、そういう話は聞きたいなって思いました。自分が思ってなかったようなこと言ってくれたりとか。」

専門実習Ⅰにおいては、模擬授業50分のあとに約30分の省察の時間を設けている。省察は、教師役、生徒役、観察・記録のそれぞれ

の立場から反省点や感じたことなどをコメントし合い、授業改善に生かす力を身につけることをねらいとしている。教師役の授業省察と生徒役からの意見・感想とを対比させたり、客観的なデータと照らし合わせるといった多角的な視点から授業を評価するという活動は、自分が受けてきた体育授業のイメージしかなかった受講生の常識に影響を与え、体育授業を新しい視点や、立場や考えの異なる視点から見ることのきっかけを与えるとともに、このように様々な視点から授業づくりを考えることが必要だということに気づくきっかけになると考えられる。

#### 4. まとめ

本研究では、本学の専門実習Ⅰで実施している模擬授業をとおして、授業計画・授業実施・省察・授業改善について十分に学習しているかについて検討するために、専門実習Ⅰの前後に質問紙調査を行い、授業・授業づくりにおいて大切だと考えることを受講生に尋ね、さらに、こうした学習成果が模擬授業におけるどのような経験から促されるかについて事例的に検討した。

授業・授業づくりにおいて大切だと考えることを尋ねる質問紙調査の結果、専門実習Ⅰの受講前には、授業実施段階に関する事柄が多く挙げられ、特に授業中に学習者を考慮することが大切だと考えていたことが示唆された。しかし、半期に渡る模擬授業に関わる活動をとおして、専門実習Ⅰ終了後には、授業計画段階の重要性を認識するという変化がみられた。その中でも特に、模擬授業前にはほとんど見られなかった、目標に対応した授業・授業づくりを行うことが大切だと考えるようになったことが、質問紙調査の結果から示唆された。

また、専門実習Ⅰの前後で授業や授業作りに対する考えが変化した3名の受講生を抽出して、こうした変化を引き起こすきっかけとなった体験についてインタビューした結果、

先生役を経験しなくても、授業づくりを行ったことと、模擬授業の観察・分析担当や生徒役を経験したことによって、授業中の学習活動のつながりや学習の見通し、目的と授業計画の対応といった、教師の視点で授業を省察することができることが分かった。

また、観察・分析担当として教師役の言葉かけや運動学習時間を振り返る経験、生徒役としてただ活動しているだけになった経験や学習課題ができなくて悔しい思いをした経験などがきっかけとなり、異なる立場での経験が累積することによって、活動をさせるだけの授業ではなく、意味のある活動をして最終的に何かにつながる授業、さらには、目的を達成することができるように授業を計画して見通しをもって実施することが必要というように、理解が深まっていくことが推察された。

また、模擬授業後に省察を行うことによって、自分と異なる視点や考えがあることが分かり、本実習を通じて、異なる視点や考え方を知ることができる省察の重要性に気づくことができた受講生がいたことも分かった。

以上の結果から、学校スポーツ専門実習Ⅰの模擬授業経験によって、受講生は授業計画段階の重要性を認識するようになり、多くの受講生が、目標と授業内容を一致させる必要があるということを知ることができたことがわかった。また、模擬授業においては教師役の経験が重視されがちであるが、生徒役としての経験は授業づくりに関する省察や計画の視点をもつきっかけになることが示唆された。しかし、教師役や生徒役、あるいは観察・記録の役割をただ経験するだけにとどめるのではなく、それぞれの立場に応じて学びを深めることができるよう仕掛ける必要があるだろう。本研究で確認できたのは一例だけであるが、受講生が相互に学びを深めていくために、模擬授業後の省察が重要な役割を果たすことも示唆された。授業づくりにおいて大切にしなければならないポイントを実体験から学び、理論と結びつけていく模擬授業の

活動は重要であると考え、さらに、今後は模擬授業によって変化した意識が、模擬授業や教育実習でどのように活用され表出させるのかについて検討していく必要がある。

#### 【引用・参考文献】

- 秋田喜代美 (1996) 教える経験に伴う授業イメージの変容：比喩生成課題による検討。教育心理学研究, 第44巻(2), 176-186.
- 藤田育郎・岡出美則・長谷川悦示・三木ひろみ (2011) 教員養成課程の体育科模擬授業における教師役経験の意義についての検討：授業の「省察」に着目して。体育科教育学研究, 第27巻(1), 19-30.
- 深見俊崇・木原俊行 (2004) 他者との関わりによる教育実習生の実践イメージの変容。日本教育工学会論文誌, 第28巻(1), 69-78.
- 長谷川悦示 (2003) 筑波大学の体育授業実習例。高橋健夫編著 体育授業を観察評価する：授業改善のためのオーセンティック・アセスメント。明和出版：東京, pp.145-151.
- 長谷川悦示・高橋健夫・三木ひろみ・須甲理生 (2010) 体育教師教育における典型的体育授業の映像視聴による効果。筑波大学体育科学系紀要, 第33巻, 25-34.
- 長谷川悦示・岡出美則・高橋健夫・萩原武久・米村耕平・松本奈緒 (2003) 筑波大学における体育教師教育カリキュラム及び指導法の検討：「体育授業理論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業展開。筑波大学体育科学系紀要, 第26巻, 69-85.
- 嘉数健悟 (2012) 体育教師志望学生の体育授業観に関する事例研究：因子構造と学年間の差異。広島大学大学院教育学研究科紀要, 第二部(61), 291-297.
- 嘉数健悟・岩田昌太郎 (2013) 教員養成段階における体育授業観の変容に関する研究：教育実習の前後に着目して。体育科教育学研究, 第29巻(1), 35-47.
- 木原成一郎・日野克博・米村耕平・徳永隆治・松田恵示・岩田昌太郎 (2008) 教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究：テスト映像を視聴した学生が気づいた体育授業の要素。広島大学大学院教育学研究科紀

- 要, 第一部(57), 69-76.
- 小松崎敏(2010) 模擬授業の意義と効果的な進め方. 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著 体育科教育学入門. 大修館書店: 東京, pp.263-271.
- 松本格之祐・小松崎敏(2008) 大学生の模擬授業における形成的授業評価と相互作用行動の関連. びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要, 第5号, 167-172.
- 三島知剛(2013) グループディスカッションとモデリングによる教職志望学生の授業観察力の育成. 教育心理学研究, 第61巻(3), 277-289.
- 村井潤・松田泰定・木原成一郎(2009) 模擬授業を複数回実施することの効果に関する事例的研究: ソフトバレーボールを教材として. 学校教育実践研究, 第15巻, 39-48.
- 山崎敬人(2004) 教育実習生の理科授業観に関する研究: 教育実習期間における授業イメージの変化. 理科教育学研究, 第44巻(2), 71-81.